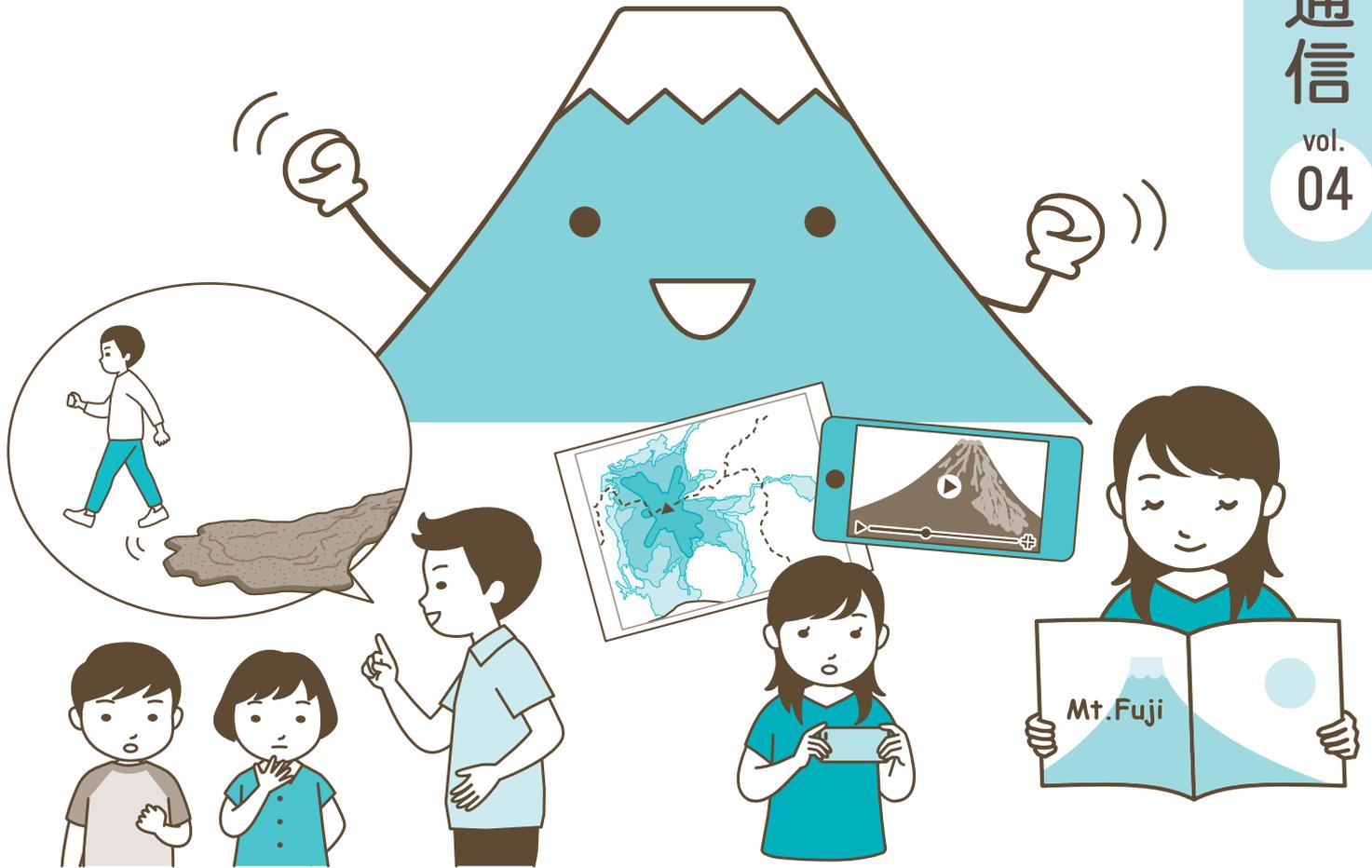


火山防災への第一歩は富士山を知ること 富士山は人間でいうと まだ10歳らしい



富士山は、私たちに多くの恩恵を与えてくれる大切な存在ですが、活火山で噴火するかもしれないと思うと少し不安もありますよね。

ところで皆さんは、富士山を人間の年齢に例えると、まだ10歳くらいの若い火山だと知っていますか？子どもなのに日本一の3776メートルの長身。これは富士山が他の火山よりも数多くの噴火を繰り返し急激に成長してきたためです。5600年間で180回くらい、平均すると30年に一度の割合で噴火しています。ここ300年間は噴火してい

富士山は、噴火の可能性があるんですか？

富士山は活火山で、いつ噴火をしてもおかしくない状況です。でも、ただ危険視するのではなく、まずは富士山についてよく知ることが大切です。

山梨県でも何か取り組みをしていますか？

富士山の自然や火山防災などの多角的な研究や情報発信をしています。

もし、噴火した時に、慌てず適切な行動を取るために、私たちが今できることはありますか？

まずは、県が公開しているハザードマップや溶岩流シミュレーション動画を活用して、自分の暮らす地域について調べてみましょう。

ワシたちがレポートを作成しました！

健康科学大学 健康科学部 理学療法学科
4年 森嶋 葉月さん 4年 宮下 龍樹さん

【問い合わせ先】 富士山火山防災については 山梨県火山防災対策室 TEL 0555-24-9036 FAX 0555-24-9038



日頃の防災意識の向上や、災害時などに、若い皆さんが活躍してくれることは心強いです。

いざという時のために、日頃からスマートフォンやバッテリーの確保やアプリを活用した情報収集も大事ですね。

僕は小中学生に柔道を教えているので、子どもたちにも富士山について伝えたいです。

私が説明させていただきます！

CHECK!



山梨県富士山科学研究所 主幹研究員
富士山火山防災研究センター長
博士(理学)

吉本 充宏さん

富士山のハザードマップや溶岩流シミュレーションなどを活用して富士山や火山現象を理解し、活火山であるということを常に意識してください。正しい知識と情報を得ることが、災害の軽減につながります。

私たちは今回、富士山火山防災を考えましたが、情報収集や避難の準備など日頃の防災意識が肝というの、自然災害や、コロナ禍での行動と全く同じだと気付くことができました。もしもの時は、私たちの創意工夫で地域を助けられるように、今からしっかり準備しようと思います。

自治体や研究者は、住民が安全に避難できる仕組みなどを考えてはいますが、もし噴火が起きた時はできることが限られるので、住民が素早く情報を収集して行動に移すことが重要です。しかし、インターネットなどに慣れていない人は迅速に情報収集することができずに困るでしょうし、お年寄りやお体が不自由な方、持病のある方などが素早く避難できるのかも心配です。そこで、スマートフォンを使いこなせて、行動できる私たち若者が、お年寄りに声掛けするなど地域の皆さんの避難行動の手助けを意識すべきだと思います。

ないので、いつ噴火してもおかしくありません。噴火する前には、地震などの兆候が検出されると考えられます。兆候が表れてから、実際に噴火するまでの時間は数日の場合もありますが、短い場合、2時間ぐらいかもありません。しかし、溶岩が流れるスピードは、人が歩く速さと同ほ同じで、避難は十分可能です。火山専門の研究機関である、山梨県富士山科学研究所では、さまざまな角度から火山としての富士山を研究し、情報を発信しています。その中でも、富士山ハザードマップや溶岩流シミュレーションは、長年の知見に基づき想定した火山噴火の被害予測です。日頃からこれらを見て、自分の家や学校、職場などから安全な場所までの避難計画を考えておけば、慌てず避難ができます。